

令和4年度第1回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果

日時：令和4年12月8日（木）17：30～19：00

場所：茨城県庁15階 病院事業管理者室

【出席委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
公認会計士	清水 至 氏
(一社)茨城県医師会長	鈴木 邦彦 氏 (委員長)
群馬県立小児医療センター院長	外松 学 氏
(一社)茨城県精神科病院協会会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	原 晃 氏
(公財)茨城県総合健診協会顧問 (県医療改革担当顧問)	山口 巖 氏
(株)日立製作所日立総合病院長	渡辺 泰徳 氏

【議事内容・意見等】

○議事内容

- ・ 令和3年度第2回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果
- ・ 茨城県病院事業中期計画（第4期）の進捗状況
- ・ 令和3年度決算
- ・ 茨城県病院事業中期計画（第5期）の策定

○主な意見

- ・ 新型コロナウイルス感染症の病床確保補助金により増えた内部留保は、地域に必要な医療提供体制を確保するために、戦略的かつ有効に活用すべき。
- ・ 次期中期計画を策定する際には、持続可能な地域医療提供体制の確保に向け、病院間の機能分化や医師派遣等の連携強化の取組を積極的に検討してほしい。
- ・ 病院の経営強化については、他県の優良事例等を参考にしながら、抜本的な取組を検討してほしい。
- ・ 独立行政法人化には、人材確保のしやすさと事務職員の定着による専門性の向上等のメリットがある。医療の高度専門化に迅速かつ的確に対応して経営強化を図っていくためには、独立行政法人化も選択肢と思われる。
- ・ 精神科病院のあり方については、長期入院を解消して地域生活を支援していくことが今後さらに重要になってくる。こころの医療センターについては、こうした5年、10年先の精神医療のニーズを想定しながら、次期中期計画の検討を進めてほしい。